

## クリスマス目前！ ケーキには欠かせない 12月上中旬、西尾のイチゴの出荷ピーク

クリスマスを目前に控えた12月中旬、JA西三河いちご部会（西尾市／大西一実部会長）のイチゴの生産・出荷が山場を迎えます。最盛期には1日に25,000パック（1パック270g<sup>㍉</sup>）を出荷の予定。クリスマスケーキ用の需要の高まりに合わせ、今シーズンのイチゴ生産の最初の山場を迎えます。

### 【JA西三河いちご部会 概要】

部会員数：97人 のべ生産面積：約16.8㍎ 生産量：約950ト<sup>㍉</sup>（2015年）

流通先：愛知県・石川県・新潟県

主な出荷品種と出荷量（2015年）

「章姫」（224万パック）「紅ほっぺ」（107万パック）「とちおとめ」（17万パック）

### ■今年の作柄■（11/28現在）

9月中の台風により定植の遅れがみられ、現時点での出荷量は例年より少ないが、日照量の回復とともに徐々に追いついてきています。病害虫の被害も少なく、大玉傾向となる見込みです。

（JA西三河小牧センター イチゴ担当 中村）

### ■西尾のイチゴ生産の特徴■

JA西三河いちご部会では97人の生産者が高設栽培（章姫）・土耕栽培（紅ほっぺ）でイチゴを生産。

同部会ではICTツールを導入して情報共有をすすめるとともに、天敵資材を利用することで農薬の使用を抑え、安全・安心で高品質なイチゴ作りを行っています。今年からは品種を「章姫」「紅ほっぺ」の2種類に絞り、量の確保を通じて市場での有利販売につなげています。

8月ごろにイチゴ苗に夜冷処理を施して花芽を分化させます。10月下旬から出荷をスタート。クリスマスを前にした需要の高まる12月中旬に一番果の出荷量ピークを迎えられるように調整しています。

### ■メディア対応日■

【日時】12月12日（月）（選果取材のみの場合）午後4時30分より  
（収穫風景の取材をご希望の場合には個別にご相談ください）

【集合】JA西三河 小牧センター（西尾市吉良町小牧梶見堂3 電話：0563-35-0246）

※ 取材される場合は、JA西三河企画課の岡田までご連絡ください。



イチゴの集荷風景（小牧センター）